

公益社団法人 物理探査学会

令和4年度通常総会資料

日 時 令和4年6月8日(水) 15:20～16:50

場 所 早稲田大学国際会議場

- 総会次第
1. 開会の辞
 2. 会長挨拶
 3. 総会開始の宣言
 4. 議 事
決議事項
第1号議案 令和3年度事業報告及び決算報告承認の件
第2号議案 令和4年度・5年度役員改選の件
第3号議案 名誉会員推薦の件
報告事項
令和4年度事業計画及び予算について
 5. 閉会の辞

(休 憩)

新旧会長挨拶

令和3年度物理探査学会表彰

- (1) 論文業績賞
- (2) 優秀発表賞
- (3) 学会業績賞
- (4) 永年在籍会員表彰

第 1 号議案:令和 3 年度事業報告及び決算報告承認の件

I. 令和 3 年度(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日) 事業報告

令和 3 年度は、本学会の目的である物理探査の学理及びその応用に係る技術の進歩、普及、並びに物理探査に携わる技術者の資質向上などを図るために、研究発表会やセミナーの開催、広報や表彰事業などの各種事業や研究会活動を活性化し、探査技術の進歩、普及促進に注力してきました。

1. 学会事業活動

[1] 研究発表会の開催

(1) 第 144 回学術講演会

- ・開催日 令和 3 年 6 月 9 日(水)～ 6 月 11 日(金)
- ・開催場所 オンライン開催
- ・一般講演 口頭発表 41 件, オンライン開催のためポスター発表はなし
- ・参加者 162 名

(2) 第 145 回学術講演会

- ・開催日 令和 3 年 11 月 24 日(水)～ 11 月 26 日(金)
- ・開催場所 香川県高松市 サンポートホール高松・Web 併用のハイブリッド形式
- ・一般講演 口頭発表 41 件, ポスター発表 15 件
- ・参加者 142 名(うち学生 25 名)

(3) 国際シンポジウム

- ・開催日 令和 3 年 10 月 18 日(月)～10 月 21 日(木)
- ・開催場所 オンライン開催
- ・一般公演 口頭発表 70 件, ポスター発表 21 件
- ・キーノートレクチャー4 件, KSEG Best Young Scientist 受賞講演 1 件
- ・参加者 145 名(外国人参加者・36 名)

[2] 会誌、書籍の編集発行等の事業

(1) 和文会誌発刊

和文誌「物理探査」は J-Stage に掲載して閲覧できるようにした(掲載後 2 年間は会員限定公開)が、ホームページの機能に不具合が生じて閲覧が難しい状況が続いてしまった。掲載された 1 年分の論文について、まとめたものを冊子として発行し、予約販売した。

(2) 英文会誌発刊

豪州物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会(KSEG)との共同で出版する英文誌「Exploration Geophysics」は電子版として年間 4 号を発行し、ウェブサイトから閲覧できるようにした。

(3) 技術資料等の頒布

既存の以下の技術資料等の出版物を継続して頒布した。

- ・物理探査ハンドブック増補改訂版 冊子 28 冊, CD19 枚
- ・地下を診る技術～驚異の物理探査(Kindle 版) 37 冊

地下を診る技術～驚異の物理探査(Kindle 版)販売は、2022 年 2 月で終了

一般向の解説書として「見えない地下を診る～驚異の物理探査」を幻冬舎ルネッサンス新社から新書版として発刊した。

[3] 研究開発, 調査, コンソーシアム活動等の事業

(1) 研究会活動

- ・地盤探査研究会を令和3年8月25日(水)に「微動アレイ探査」をテーマとしてオンライン開催した(参加者58名)。
- ・地震防災研究会シンポジウムを令和3年9月22日(水)に「微動探査および表面波探査」をテーマとしてオンライン開催した(参加者64名)。
- ・第4回ドローン物理探査研究会を、令和4年1月12日(水)にオンライン開催した。招待講演1件と空中探査をテーマとした2件の講演が行われた(参加者89名)。

[4] 講座, セミナーの開催, 関連学協会との協力等の事業

(1) 物理探査セミナー

- ・令和3年7月7日(水)~7月9日(金)にオンライン開催した。
- ・参加者93名

(2) ワンデーセミナー(オンラインセミナー)

- ・開催日 令和4年3月11日(金)にオンライン開催した。
- ・テーマ 光ファイバーマルチセンシング

(3) キャンパスビジット

- ・COVID-19の影響により開催中止

(4) 関連学協会との連携・協力

① 国内関連学協会

(公社)日本地球惑星科学連合, (一社)資源・素材学会, (一社)日本リモートセンシング学会, 日本地熱学会, (公社)日本地震学会, (一社)日本応用地質学会, (公社)地盤工学会, (公社)計測自動制御学会, 石油技術協会, (一財)日本非破壊検査協会, (公社)日本地震工学会, (公社)農業農村工学会と講演会等で相互に協力した。

② 地盤工学会

「地盤調査のための物理探査法標準化検討委員会」では微動アレイ探査の国際規格化を検討している地盤工学会のWG(地盤工学会 ISO/TC182 国内専門委員会の「広域における地盤工学特性の評価手法に関するWG」)に委員派遣を行った。

③ 日本地球惑星科学連合大会

日本地球惑星連合大会はオンライン開催となったが、下記のセッションを主催した。

- ・空中計測セッション, 浅層物理探査セッション, 地震波伝播セッション, 電磁探査国際セッション

④ 海外関連学会

令和3年度は、下記関連国際学会とはCOVID-19の影響によりオンサイトでの参加はとりやめて、会誌やホームページ等を通じて物理探査技術を紹介した。

- ・欧州物理探査学会(EAGE)
- ・米国物理探査学会(SEG)
- ・環境土木物理探査学会(EEGS)
- ・豪州物理探査学会(ASEG)
- ・韓国物理探査学会(KSEG)
- ・中国石油物理探査学会(SPG China)
- ・ベトナム物理探査学会(VAG)
- ・インドネシア物理探査学会(HAGI)

⑤ 韓国物理探査学会(KSEG)との学術講演会における相互派遣

- ・COVID-19の影響により、双方の学術講演会に代表者を相互派遣することは中止したが、国際シンポジウムにおいて韓国のKSEG Best Young Scientist 受賞者による講演を行った。

⑥ SEG等海外学会教育プログラムの開催支援

令和3年度はオンライン開催が中心で下記のようなプログラムが遂行された。

- ・SEG Virtual Lecture
 - －HL, DL: オンラインでいくつかのセミナーが開催された。
 - －SEG Council Meeting: 9月27日にオンライン開催、国際委員会副委員長が参加した。
 - －DISC: 11月9日～11月10日にオンライン開催、参加者25名(日本からは15名)
- ・EAGE DLP
 - －COVID-19の影響で代表者の派遣は中止した。

(5) 技術者継続教育活動

令和3年度も加盟している各学協会と連携して生涯学習支援システムの共同運営を継続し、会員の技術者継続教育活動をサポートした。

[5] 物理探査に係る広報活動事業

(1) 物理探査ニュース

「物理探査ニュース」No.50からNo.53の4巻を発行し、会員に配布した。また、一般向けに2021年ハイライト(総集編)を発行した。

(2) ホームページ

学会ホームページの会員データベースに関わる部分で、不具合が続いているため、サーバの変更等も含めて対策について検討している。

[6] 物理探査学に係る研究, 活動に対する表彰事業

令和3年度通常総会において、令和2年度物理探査学会表彰を行った。

[6-1] 第61回(令和2年度)物理探査学会賞

(1) 論文業績賞

論文賞

- ・受賞者 : 城森 明, 結城 洋一
- ・対象論文: 城森 明, 城森 信豪, 城森 敦善, 近藤 隆資, 結城 洋一, 新清 晃 (2020):
ドローンを用いた過渡応答空中電磁探査装置の開発
－ D-GREATEM, D-TEM[GLS], D-TEM[ALS] ー, 物理探査, **73**, 83-95

事例研究賞

- ・受賞者 : 押田 淳, 立花 冬威, 久保田 隆二
- ・対象論文: 押田 淳, 立花 冬威, 角 知則, 久保田 隆二 (2020):
海底重力計の開発と海底熱水鉱床探査への適用, 物理探査, **73**, 23-32

奨励賞

- ・受賞者 : 岡本 京祐
- ・対象論文: Kyosuke Okamoto & Seiji Tsuno (2019):
Accuracy improvement in the estimation of epicentral distance inferred from initial P-waves by considering local heterogeneity, Exploration Geophysics, **50**, 159-171

(2) 優秀発表賞

オンサイトでの講演発表がなかったため対象者なし

(3) 学会業績賞

- 学術業績賞 該当者なし
- 運営功績賞 該当者なし

[6-2] 第 61 回(令和 2 年度)永年貢献表彰

(1) 功労会員表彰 該当者なし

(2) 永年在籍会員表彰

① 在籍 30 年以上, 満 70 歳以上 (13 名・50 音順)

大井 豊樹, 太田 賢治, 大坪 章, 大橋 武一郎, 川辺 義見, 高杉 真司, 徳丸 哲義,
中野 修, 南雲 政博, 西谷 忠師, 松岡 清幸, 松林 修, 渡辺 文雄

② 50 年在籍 賛助会員

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構, 復建調査設計株式会社

③ 30 年在籍 賛助会員

九州日商興業株式会社

(3) 名誉会員表彰 該当者なし

[7] その他目的を達成するために必要な事業

学会の活性化を図るために、学会業務のIT化を継続的に推進すると共に、学会ホームページの維持管理を行った。一時、ホームページに不具合が生じたので、今後の維持管理についても検討した。

2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

[1] 通常総会

令和 3 年 6 月 8 日(月) 物理探査学会事務局会議室を拠点にオンライン開催

[2] 理事会

下記のとおり理事会を開催した。

第 104 回理事会	令和 3 年 4 月 20 日	物理探査学会会議室を拠点にオンライン開催
臨時理事会	令和 3 年 6 月 11 日	物理探査学会会議室を拠点にオンライン開催
第 105 回理事会	令和 3 年 7 月 27 日	物理探査学会会議室を拠点にオンライン開催
第 106 回理事会	令和 3 年 10 月 23 日	物理探査学会会議室を拠点にオンライン開催
第 107 回理事会	令和 4 年 1 月 20 日	物理探査学会会議室を拠点にオンライン開催

3. 会員状況

	令和 3 年 3 月末	令和 4 年 3 月末	増 減
名誉会員	13 名	12 名	1 名減
正会員	1088 名	1114 名	26 名増
(学生会員)	(64 名)	(79 名)	(15 名増)
賛助会員	102 社 211 口	99 社 205 口	3 社・6 口減

正会員数には()内の学生会員数を含む

以上

Ⅱ. 令和3年度決算報告

貸借対照表

令和 4年 3月31日現在 (単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	13,025,216	17,500,103	△ 4,474,887
未収金	4,867,890	496,100	4,371,790
棚卸資産	2,362,080	2,943,955	△ 581,875
流動資産合計	20,255,186	20,940,158	△ 684,972
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
公益目的運用特定資産			
技術普及積立資産			
周年事業積立資産			
特定資産合計			
特定資産・基金	23,614,487	25,253,487	△ 1,639,000
特定資産合計	23,614,487	25,253,487	△ 1,639,000
(3) その他固定資産			
敷金	660,000	660,000	0
その他固定資産合計	660,000	660,000	0
固定資産合計	24,274,487	25,913,487	△ 1,639,000
資産合計	44,529,673	46,853,645	△ 2,323,972
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	185,244	19,095	166,149
前受金	13,750	5,500	8,250
前受会費	58,500	85,500	△ 27,000
預り金	76,890	117,004	△ 40,114
仮受金	0	3,000	△ 3,000
未払消費税等	0	43,000	△ 43,000
流動負債合計	334,384	273,099	61,285
負債合計	334,384	273,099	61,285
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	44,195,289	46,580,546	△ 2,385,257
(うち特定資産への充当額)	23,614,487	25,253,487	△ 1,639,000
正味財産合計	44,195,289	46,580,546	△ 2,385,257
負債及び正味財産合計	44,529,673	46,853,645	△ 2,323,972
(うち特定資産への充当額)	23,614,487	25,253,487	△ 1,639,000
正味財産合計	44,162,373	46,580,546	△ 2,418,173
負債及び正味財産合計	44,529,673	46,853,645	△ 2,323,972

正味財産増減計算書 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	417	1,158	△ 741
受取会費	11,368,000	11,112,250	255,750
正会員会費収入	7,128,000	7,192,250	△ 64,250
賛助会員会費収入	6,655,500	3,920,000	2,735,500
事業収益	10,924,742	2,764,158	8,160,584
開催事業収入	3,405,611	781,150	2,624,461
受取投稿料	3,381,611	403,700	2,977,911
頒布事業収入	1,915,731	1,083,208	832,523
受託事業	5,358,100	496,100	4,862,000
受取補助金	569,870	0	569,870
受取寄付金	906,800	869,000	37,800
雑収入	222,201	162,733	59,468
経常収益計	23,992,030	14,909,299	9,082,731
(2) 経常費用			
事業費	23,489,272	18,457,219	5,032,053
給料手当	4,848,999	4,646,879	202,120
臨時雇賃金	1,010,000	888,000	122,000
退職給付費用	394,698	381,667	13,031
福利厚生費	407,625	372,890	34,735
旅費交通費	699,169	398,313	300,856
会議費	363,461	205,745	157,716
通信運搬費	743,532	438,831	304,701
消耗品費	503,988	235,938	268,050
印刷製本費	3,901,650	3,789,533	112,117
光熱水料費	0	328,339	△ 328,339
賃借料	4,625,179	3,911,063	714,116
保険料	6,842	6,282	560
諸謝金	501,512	33,400	468,112
出版物原価	581,875	355,982	225,893
支払負担金	170,280	168,411	1,869
表彰品費	93,151	117,695	△ 24,544
支払奨励金	10,000	0	10,000
支払手数料	221,235	232,444	△ 11,209
租税公課	2,467	36,138	△ 33,671
委託費	4,314,031	1,813,653	2,500,378
雑費	89,578	96,016	△ 6,438
管理費	2,888,015	2,877,488	10,527
給料手当	1,047,951	1,197,229	△ 149,278
臨時雇賃金	0	0	0
退職給付費用	85,302	98,333	△ 13,031
福利厚生費	88,095	96,072	△ 7,977
旅費交通費	80,053	92,111	△ 12,058
会議費	5,815	8,698	△ 2,883
通信運搬費	26,497	37,342	△ 10,845
消耗品費	52,989	49,085	3,904
印刷製本費	10,820	20,864	△ 10,044
光熱水料費	395,101	84,710	310,391
賃借料	913,821	966,243	△ 52,422
保険料	1,478	1,618	△ 140
支払手数料	39,027	44,117	△ 5,090
租税公課	533	9,312	△ 8,779
支払負担金	13,460	15,426	△ 1,966
委託費	114,368	131,592	△ 17,224
雑費	12,705	24,736	△ 12,031
経常費用計	26,377,287	21,334,707	5,042,580
当期経常増減額	△ 2,385,257	△ 6,425,408	4,040,151
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
経常外費用計	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,385,257	△ 6,425,408	4,040,151
一般正味財産期首残高	46,580,546	53,005,954	△ 6,425,408
一般正味財産期末残高	44,195,289	46,580,546	△ 2,385,257
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	44,195,289	46,580,546	△ 2,385,257

正味財産増減計算書内訳表 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	417	0	417
受取会費	8,516,800	2,851,200	11,368,000
正会員会費収入	4,276,800	2,851,200	7,128,000
賛助会員会費収入	3,993,300	2,662,200	6,655,500
事業収益	10,924,742	0	10,924,742
開催事業収入	3,405,611	0	3,405,611
受取投稿料	3,381,611	0	3,381,611
頒布事業収入	1,915,731	0	1,915,731
受託事業	5,358,100	0	5,358,100
受取補助金	569,870	0	569,870
受取寄付金	870,000	36,800	906,800
雑収入	222,004	197	222,201
経常収益計	21,103,833	2,888,197	23,992,030
(2) 経常費用			
事業費	23,489,272	0	23,489,272
給料手当	4,848,999	0	4,848,999
臨時雇賃金	1,010,000	0	1,010,000
退職給付費用	394,698	0	394,698
福利厚生費	407,625	0	407,625
旅費交通費	699,169	0	699,169
会議費	363,461	0	363,461
通信運搬費	743,532	0	743,532
消耗品費	503,988	0	503,988
印刷製本費	3,901,650	0	3,901,650
光熱水料費	0	0	0
賃借料	4,625,179	0	4,625,179
保険料	6,842	0	6,842
諸謝金	501,512	0	501,512
出版物原価	581,875	0	581,875
支払負担金	170,280	0	170,280
表彰品費	93,151	0	93,151
支払奨励金	10,000	0	10,000
支払手数料	221,235	0	221,235
租税公課	2,467	0	2,467
委託費	4,314,031	0	4,314,031
雑費	89,578	0	89,578
管理費	0	2,888,015	2,888,015
給料手当	0	1,047,951	1,047,951
臨時雇賃金	0	0	0
退職給付費用	0	85,302	85,302
福利厚生費	0	88,095	88,095
旅費交通費	0	80,053	80,053
会議費	0	5,815	5,815
通信運搬費	0	26,497	26,497
消耗品費	0	52,989	52,989
印刷製本費	0	10,820	10,820
光熱水料費	0	395,101	395,101
賃借料	0	913,821	913,821
保険料	0	1,478	1,478
支払手数料	0	39,027	39,027
租税公課	0	533	533
支払負担金	0	13,460	13,460
委託費	0	114,368	114,368
雑費	0	12,705	12,705
経常費用計	23,489,272	2,888,015	26,377,287
当期経常増減額	△2,385,439	182	△2,385,257
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△2,385,439	182	△2,385,257
一般正味財産期首残高	15,808,315	30,772,231	46,580,546
一般正味財産期末残高	13,422,876	30,772,413	44,195,289
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	13,422,876	30,772,413	44,195,289

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
棚卸資産の評価基準方法は、先入先出法による原価法を採用している。
- (2) 消費税等の会計処理
消費税は税込み処理を行っている。

2. 特定資産の増減及びその残高

特定資産の増減及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
公益目的運用特定資産	21,000,000	0	0	21,000,000
技術普及積立資産	793,487	0	0	793,487
周年事業積立資産	3,460,000	0	1,639,000	1,821,000
	25,253,487	0	1,639,000	23,614,487

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等は、一般正味財産からの充当額である。

4. 担保に供している資産

該当なし。

5. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

6. 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

(単位:円)

補助金の名称	交付者	前期末 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期末 残高	貸借対照表上 の記載区分
学術講演会 補助金		0	0	0	0	
合 計		0	0	0	0	

7. 重要な後発事象

該当なし

財産目録 令和4年3月31日現在

貸借対照表科目		場所・物量等	金額
(流動資産)	現金	手元保管(運転資金として)	2,815
	預金	普通預金	8,053,479
		三菱UFJ・大森支店	5,078,876
		三井住友・大森支店	2,467,466
		三井住友・浅草橋支店	256
		三菱UFJ・大森支店	482,208
		三菱UFJ・大森支店	24,673
		郵便貯金	4,968,922
		岩本郵便・普通	4,751,791
		岩本郵便・普通	210,721
		岩本郵便・普通	6,410
	未収金		4,867,890
	棚卸資産	書籍在庫品を倉庫で保管	2,362,080
流動資産合計			20,255,186
(固定資産)			
特定資産			
	特定資産・基金		23,614,487
	公益目的運用特定資産		21,000,000
	技術普及積立資産		793,487
	周年事業積立資産		1,821,000
その他固定資産	敷金		660,000
固定資産合計			24,274,487
資産合計			44,529,673
(流動負債)			
	未払金		185,244
	前受金		13,750
	前受会費		58,500
	預り金		76,890
流動負債合計			334,384
負債合計			334,384
正味財産			44,195,289

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2に記載のとおりである。

監査報告書

公益社団法人 物理探査学会
会長 渡辺 俊樹 殿

令和4年 4月 14日
公益社団法人 物理探査学会

監事 莊司泰敬 

監事 大貫良太 

私たちは、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法および結果について次のとおり報告します。

1. 監査の方法及び内容

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他重要な会議に出席し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は事実であると認めます。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

第2号議案:令和4年度・5年度役員改選の件

物理探査学会規則第4章に基づき、役員(理事及び監事)選挙の公示を決議し、令和3年12月15日～令和4年1月30日の間、役員候補者の公募を実施しました。その結果、定数の理事20名、監事2名に対して下記のとおり理事20名、監事2名の推薦があり、役員候補者選考委員会による資格審査を経て第108回理事会に付議され、理事会は役員候補者を役員選任議案として提出いたします。本総会では、候補者の理事、監事への選任についてお諮りします。なお、選任された役員の任期は令和6年度の通常総会において次期役員が選任されるまでの2年間となります。

令和4年度-5年度の役員候補一覧

会 務	氏 名	所 属	区 分
理事候補	石垣 孝一	株式会社日本地下探査	重任
	小田 義也	東京都立大学	重任
	岸本 宗丸	日鉄鉱コンサルタント株式会社	重任
	倉橋 稔幸	(国研) 土木研究所寒地土木研究所	重任
	小西 千里	応用地質株式会社	新任
	小澤 岳史	株式会社地球科学総合研究所	重任
	後藤 忠徳	兵庫県立大学	重任
	佐伯 龍男	(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構	重任
	志賀 信彦	三井金属資源開発株式会社	重任
	鈴木 敬一	川崎地質株式会社	重任
	羽佐田 葉子	大和探査技術株式会社	重任
	松浦 紳二	株式会社INPEX	新任
	松島 潤	東京大学大学院 新領域創成科学研究科	重任
	光畑 裕司	(国研) 産業技術総合研究所	重任
	森 充広	(国研) 農研機構農村工学研究所	新任
	山根 照真	株式会社地球科学総合研究所	重任
	山本 英和	岩手大学	重任
	横田 俊之	(国研) 産業技術総合研究所	新任
	吉川 猛	基礎地盤コンサルタンツ株式会社	重任
	渡辺 俊樹	名古屋大学	重任
監事候補	大貫 良太	監査法人MMPGエーマック, 公認会計士	重任
	三木 茂	基礎地盤コンサルタンツ株式会社	新任

第3号議案: 名誉会員推薦の件

令和4年4月に開催された第108回理事会の決議により、中野 修 氏 および 渡辺 文雄 氏を名誉会員に推薦します。

推薦理由

中野 修 氏

中野修氏は当学会に30年以上在籍され、平成16年から21年まで理事、平成22年から27年まで監事を務められました。この間に行事委員長、総務・財政委員長なども歴任され、当学会の公益法人化にも尽力されました。さらに規則等の制定や理事会の運営に多大な貢献をされてきました。

表彰規程別表1に記載されている名誉会員の選考基準「(3)通常総会開催前年度において会員歴30年以上でかつ満年齢70歳以上の正会員で以下の一つに該当する者」のうち「イ)通常総会開催前年度に通算10年以上本学会の役員を勤めるなど「本学会の運営発展に顕著な功績のあった者」に該当すると考えられます。

以上のことから、名誉会員として推薦いたします。

渡辺 文雄 氏

渡辺文雄氏は30年以上当学会に在籍され、平成16年から19年まで理事、平成20年から23年まで常務理事を務められました。この間に企画開発委員長、総務・財政委員長なども歴任され、さらに当学会の公益法人化にも尽力されました。この功績により、平成29年度に運営功績表彰を受賞されています。

また、平成23年の東日本大震災により、河川堤防の安全性評価への期待が高まり、河川堤防委員会の取りまとめや土木研究所との研究に大きな成果を上げました。その結果は「河川堤防の統合物理探査－安全性評価への適用の手引き」として出版され、その後、国土交通省や JOGMEC 等からの業務を継続的に受託できるようになりました。

以上のことから表彰規程別表1に記載されている名誉会員の選考基準「(3)通常総会開催前年度において会員歴30年以上でかつ満年齢70歳以上の正会員で以下の一つに該当する者」のうち「イ)通常総会開催前年度に通算10年以上本学会の役員を勤めるなど「本学会の学術的発展および運営発展に顕著な功績のあった者」に該当すると考えられます。

このように、渡辺文雄氏の学会活動への多大な貢献があると認められるので、名誉会員として推薦いたします。

令和4年度事業計画

I. 令和4年度事業計画

令和4年度は、これまで実施してきた研究開発奨励促進事業、探査技術の普及促進事業、広報活動、研究活動及び表彰等の事業を継続・発展させるとともに会員へのサービスの拡大並びに一般社会への貢献にこれまで以上に力を注いで学会活動の充実を図ります。

1. 学会事業活動

[1] 研究発表会の開催

物理探査学に係る研究開発の奨励促進を図るために以下の事業を実施する。

(1) 第146回学術講演会

- ・開催日 令和4年6月7日(火)～6月9日(木)
- ・開催場所 早稲田大学国際会議場 ハイブリッド開催

(2) 第147回学術講演会

- ・開催日 令和4年11月16日(水)～11月18日(金)
- ・開催場所 弘前市民会館

[2] 会誌、書籍の編集発行等の事業

(1) 和文会誌発刊

和文誌「物理探査」は J-Stage から論文を閲覧できるようになっている。ただし、少数部数ではあるが、今年度も昨年度1月から今年度12月末までの論文をまとめた冊子を発行し、希望者には有償で販売する。

(2) 英文会誌発刊

豪州物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会(KSEG)との共同で出版する英文誌「Exploration Geophysics」について、電子版を4号発行する。

(3) 技術資料等の頒布

以下に示す既存の技術資料等の出版物を継続して頒布する。

- ・会誌「物理探査」DVD(第1巻～第60巻)
- ・学術講演会論文集 DVD(第43回～第118回)
- ・国際シンポジウム論文集 DVD(第1回～第8回)
- ・学術講演会論文集(冊子, CD)
- ・物理探査ハンドブック増補改訂版(冊子, CD)

[3] 研究開発、調査、コンソーシアム活動等の事業

(1) 研究会活動

- ・ドローン物理探査研究会
- ・地盤探査研究会
- ・電気探査研究会
- ・地震防災研究会
- ・地盤調査のための物理探査法標準化検討委員会

[4] 講座、セミナーの開催、関連学協会との協力等の事業

(1) 物理探査セミナー

- ・開催日 令和4年7月

- ・開催場所
- (2) ワンデーセミナー
 - ・開催日 未定
 - ・開催場所 首都圏（会場型とオンライン配信のハイブリッド形式）
- (3) キャンパスビジット
 - ・コロナ禍の状況を見ながら開催について検討する。
 - 開催場所は、リクエストを考慮し決定（オンライン形式も考慮）
- (4) 関連学協会との連携・協力
 - ① 国内関連学協会

（公社）日本地球惑星科学連合，（一社）資源・素材学会，（一社）日本リモートセンシング学会，日本地熱学会，（公社）日本地震学会，（一社）日本応用地質学会，（公社）地盤工学会，（公社）計測自動制御学会，（公社）土木学会，（一社）全国地質調査業協会連合会，石油技術協会，（一社）日本非破壊検査協会，（公社）日本地震工学会と講演会、セミナー等で相互に協力する。
 - ② 日本地球惑星科学連合大会

日本地球惑星連合大会 2022 年大会 (JpGU Meeting 2022) は、これまでと同様セッション提案などで協力していく。
 - ③ 海外関連学会

下記関連国際学会の講演会・年次総会に参加して国際交流を深めると共に、国際レベルの物理探査技術を会誌、ホームページ等を通じて紹介する。

 - ・欧州物理探査学会(EAGE)
 - ・米国物理探査学会(SEG)
 - ・環境土木物理探査学会(EEGS)
 - ・豪州物理探査学会(ASEG)
 - ・韓国物理探査学会(KSEG)
 - ・中国石油物理探査学会(SPG China)
 - ・ベトナム物理探査学会(VGA)
 - ・インドネシア物理探査学会(HAGI)
 - ④ SEG 教育プログラムの開催支援

海外の関連学会 SEG が主催し、日本国内で実施する物理探査技術の教育・普及活動に対して本年度も参加者の募集、会場の運営等、その支援を行う。
- (5) 技術者継続教育活動

令和 4 年度も加盟している各学協会と連携して生涯学習支援システムの共同運営を継続し、会員の技術者継続教育活動をサポートする。

[5] 物理探査に係る広報活動事業

- (1) 物理探査ニュース

物理探査に係る広報活動事業の一環として、物理探査ニュース(No.54～No.57)の 4 巻の発行を行い、会員に配布するとともに物理探査に関係する機関に広く無償で配布する。また、一般向けに 2022 年ハイライト(総集編)の発行を行う。
- (2) ホームページ

学会ホームページをさらに見易かつ親しみやすいものへ更新し、WEB を通じて学会活動の広報及び会員相互の情報共有の活性化を図る。
- (3) 海外学会での講習会開催

EAGE 5th Asia Pacific Near Surface Geoscience & Engineering
2022 年 10 月 24 日～27 日、台北
現地開催の場合は、SEGJ セミナーを実施する。

[6] 物理探査学に係る研究、活動に対する表彰事業

令和3年度において、以下の表彰等を行う。

[6-1] 物理探査学会賞

(1) 物理探査学会賞・論文業績賞

① 論文賞、事例研究賞

会誌に発表された論説・論文・短報の中から特に優秀なものに物理探査学会論文賞を、ケーススタディ・技術報告の中から特に優秀なものに同事例研究賞を、また、探査技術の進歩に寄与あるいは著しい探査成果をあげた業績の中から特に優秀なものに同業績賞を授与する。

② 物理探査学会奨励賞

若手会員の活動を評価・支援するべく奨励賞を授与する。

(2) 学術講演会等における物理探査学会賞・優秀発表賞

学術講演会等の活性化と技術の向上を図るため、ウェブ開催となる場合でも、最優秀発表賞および35歳以下の若手研究者・技術者を対象として優秀発表賞を授与する。

(3) 物理探査学会賞・学術業績賞

探査技術の進歩に寄与した者、あるいは物理探査について優れた業績をあげたものから、特に優秀なものについて授与する。

(4) 物理探査学会賞・運営功績賞

運営発展に特段の功績があった会員あるいは団体に運営功績賞を授与する。

[6-2] 永年貢献表彰

(1) 永年在籍会員表彰

在籍30年かつ満70歳を超える正会員、及び在籍30年に達した賛助会員と50年に達した賛助会員に授与する。

(2) 名誉会員表彰

満70歳を超え会長の経験者または物理探査に関する学術、技術の発展に大きな貢献があった会員、あるいは会員歴30年以上かつ10年以上本学会の役員を勤め学会の運営発展、学術・技術貢献、学会発展に貢献があった会員に授与する。

[7] その他目的を達成するために必要な事業

学会の活性化を図るため継続して学会業務のIT化を推進すると共に、学会ホームページの維持管理を行う。

2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

[1] 通常総会

令和4年6月8日(水)、早稲田大学国際会議場でハイブリッド開催する。

[2] 理事会

令和4年度中に4回開催する。

[3] 運営幹事会

令和4年度中に必要に応じて開催する。

Ⅱ. 令和4年度収支予算

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	1,000		1,000
受 取 会 費	8,680,000	2,920,000	11,600,000
正会員会費収入	4,380,000	2,920,000	7,300,000
賛助会員会費収	4,300,000		4,300,000
事 業 収 益	8,700,000		8,700,000
開催事業収入	7,800,000		7,800,000
受取投稿料	120,000		120,000
頒布事業収入	780,000		780,000
受 託 事 業	0		0
受取補助金	0		0
受取寄付金	800,000		800,000
雑 収 入	99,000		99,000
経常収益計	18,280,000	2,920,000	21,200,000
(2) 経常費用			
事 業 費	18,280,000		18,080,000
給 料 手 当	4,580,000		4,580,000
臨時雇賃金	900,000		900,000
退職給付費用	380,000		380,000
福利厚生費	380,000		380,000
旅費交通費	300,000		300,000
会 議 費	1,400,000		1,400,000
通信運搬費	500,000		500,000
消耗品費	300,000		300,000
印刷製本費	2,100,000		2,100,000
光熱水料費	450,000		350,000
賃 借 料	4,100,000		4,000,000
保 険 料	8,000		8,000
諸 謝 金	400,000		400,000
出版物原価	400,000		400,000
支払負担金	160,000		160,000
表彰品費	120,000		120,000
支払手数料	250,000		250,000
租 税 公 課	300,000		300,000
委 託 費	1,200,000		1,200,000
雑 費	52,000		52,000
管 理 費		2,920,000	3,120,000
給 料 手 当		720,000	720,000
退職給付費用		90,000	90,000
福利厚生費		90,000	90,000
旅費交通費		90,000	90,000
会 議 費		20,000	20,000
通信運搬費		30,000	30,000
消耗品費		45,000	45,000
印刷製本費		25,000	25,000
光熱水料費		730,000	830,000
賃 借 料		840,000	940,000
保 険 料		2,000	2,000
支払手数料		30,000	30,000
租 税 公 課		40,000	40,000
支払負担金		15,000	15,000
委 託 費		130,000	130,000
雑 費		23,000	23,000
経常費用計	18,280,000	2,920,000	21,200,000
評価損益調整前当期増減額	0	0	0

令和3年度 公益社団法人物理探査学会表彰

第 62 回(令和 3 年度)物理探査学会賞

(1) 論文業績賞

論文賞

- ・受賞者 : 山本英和・齊藤 剛
- ・対象論文: 山本英和・齊藤 剛(2020): 詳細震度分布と簡易微動アレイ探査による平均 S 波速度との関係ー岩手県大船度市における 2003 年宮城県沖の地震によるアンケート震度調査に基づいてー, 物理探査, 73, 149-167

事例研究賞

- ・受賞者 : 佐竹 海・井手健斗・万沢かりん・上田 匠・神宮司元治・横田俊之・小森省吾
- ・対象論文: 佐竹 海・井手健斗・万沢かりん・上田 匠・神宮司元治・横田俊之・小森省吾(2021): 無人地上車両 (UGV) を用いたマルチコイル型電磁探査システムの開発, 物理探査, 74, 151-161
- ・受賞者 : 結城洋一・齋藤全史郎・城森 明
- ・対象論文: 結城洋一・新清 晃・富森さとし・齋藤全史郎・城森 明・城森敦善(2021): ドローン空中電磁探査法による濃尾平野西濃地域の地質構造調査, 物理探査, 74, 142-150

奨励賞

- ・受賞者 : 多良賢二
- ・対象論文: 多良賢二・加藤政史・浅川栄一・芦寿一郎(2020): 深海曳航型ハイドロフォンケーブルを用いた高分解能音波探査による海底熱水鉱床探査, 物理探査, 73, 14-22

(2) 優秀発表賞

ー最優秀発表賞

① 第 144 回春季学術講演会(オンライン開催)

- ・受賞者: 小西 千里 (応用地質)
- ・対 象: 小西千里, 鈴木晴彦, 石塚理:
稠密微動測定による H/V スペクトルを用いた表層地盤の分類

② 第 145 回秋季学術講演会(サンポートホール高松・ハイブリッド開催)

- ・受賞者: 岡本 京祐 (産総研)
- ・対 象: 岡本京祐, 田中勇希, 浅沼 宏, 青木直史, 大里和己, 小野寺真也:
微小地震探査による地熱井近傍の構造推定 その2

ー優秀発表賞<口頭発表>

① 第 144 回春季学術講演会(オンライン開催)

- ・受賞者: 内垣 友貴(九大)
- ・対 象: 内垣友貴, 辻 健, 鷗山 尚大, 金森洋史:
氷が与えるレゴリスシミュラントの S 波速度への影響の検討
- ・受賞者: 寺西 陽祐(地科研)
- ・対 象: 寺西陽祐, 岡本 拓, 東中基倫, 高井克己, 笠谷貴史, 後藤忠徳:
海洋 CSEM 探査技術の国内内製化に向けた取り組み
ー2020 年度海洋 CSEM 実証試験を例としたノイズ低減処理ー
- ・受賞者: 桑井 康行 (早大)
- ・対 象: 桑井康行, 河合将人, 宅間晴史, 岡田拓己, 上田 匠, 中島崇裕:

水平多層構造における任意送受信配置および任意送信電流波形に対応した電磁探査
応答計算プログラムの開発

② 第 145 回秋季学術講演会(サンポートホール高松・ハイブリッド開催)

- ・受賞者: 西野 玉城(早大)
- ・対象: 西野玉城, 上田 匠: 深層ニューラルネットワークを用いた周波数領域空中電磁探査
データ逆解析の改良と実装
- ・受賞者: 國政 光 (都立大)
- ・対象: 國政 光, 鳥取 稜平, 東 宏幸, 小田 義也: Transformer を用いた深層学習による
地震波自動検測ー八丈島臨時地震観測データへの適用ー

ー優秀発表賞<ポスター発表>

① 第 144 回春季学術講演会(オンライン開催)

オンライン開催のため対象者なし

② 第 145 回秋季学術講演会(サンポートホール高松・ハイブリッド開催)

- ・受賞者: 荒巻 健(九大)
- ・対象: 荒巻 健・池田達紀・辻 健・山浦悠貴:
雑微動を用いた表面波トモグラフィによる地熱地域の 3 次元 S 波速度構造

(3) 学会業績賞

- ー学術業績賞 該当者なし
- ー運営功績賞 該当者なし

(4) 永年貢献表彰

ー永年在籍会員表彰

- ① 在籍 30 年以上, 満 70 歳以上
杉山 長志, 横井 浩一, 高智 英二郎, 茂木 透, 金子 力, 須藤 公也, 岡嶋 眞一
香村 一夫, 稲垣 正晴, 稲谷 栄己
- ② 50 年在籍賛助会員
株式会社阪神コンサルタンツ, ドリコ株式会社
- ③ 30 年在籍賛助会員
株式会社ジオテック

ー名誉会員表彰

中野 修, 渡辺 文雄